

2018年度
ウイリアムス神学館要覧



日本聖公会京都教区

ウイリアムス神学館
THE BISHOP WILLIAMS' THEOLOGICAL SEMINARY

2018年度 週間講義表

1学期 4月2日(月)～7月25日(水) / 2学期 9月3日(月)～12月12日(水) / 3学期 1月7日(月)～3月15日(金)
 (授業 試験週) 1学期 4月10日(火)～7月7日(土) / 2学期 9月5日(水)～12月8日(土) / 3学期 1月9日(水)～3月9日(土)

	7:00～ 9:00	I 9:00～10:25	II 10:35～12:00	12:05～ 13:20	III 13:20～14:45	IV 14:55～16:20	V 16:30～17:55	18:00～				
火	朝の礼拝 朝食	聖餐式 -(チャペル) (9:00-9:50)	今日の宣教(岩城)-㊤	昼食	文献講読(黒田)-㊤ 教理学Ⅰ(岩城)-㊤	ヘブライ語Ⅰ(下田屋)-㊤ 教理学Ⅱ(岩城)-㊤	聖公会論(岩城)-㊤	夕の 礼拝 夕食				
									1年	2年	3年	
									伝			
水	朝の礼拝 朝食	教会音楽(辻)-㊤	旧約入門(勝村)-㊤ キリスト教倫理学Ⅱ(スワン)-㊤	嘆願 昼食	英書講読(黒田)-㊤ 旧約釈義(勝村)-㊤	日本キリスト教史 (出口)-㊤	聖書研究(1-2学期/隔週)-㊤ 実践神学特講(3学期/毎週)-㊤ (15:15-17:15)	夕の 礼拝 夕食				
									1年	2年	3年	
									伝			
										バイコンⅠ(鈴木)-㊤		
										礼拝学Ⅱ(林)-㊤		
										礼拝学Ⅲ(麓)-㊤		
木	朝の礼拝 朝食	ギリシア語Ⅰ(高地)-㊤	哲学入門(菊地)-㊤	昼食	ギリシア語Ⅲ(菊地)-㊤	教会史(菊地)-㊤	臨床牧会訓練	夕の 礼拝 夕食				
									1年	2年	3年	
									伝			
金	朝の礼拝 朝食	ギリシア語Ⅱ(菊地)-㊤	牧会学(黒田)-㊤	嘆願 昼食	ギリシア語Ⅲ(菊地)-㊤			夕の 礼拝 夕食				
									1年	2年	3年	
									伝			
土	朝の礼拝 朝食	新約入門(嶺重)-㊤	新約神学(前川)-㊤	昼食				夕の 礼拝 朝食				
									1年	2年	3年	
									伝			

*教室略号→ 大教室-㊤、中教室-㊥、小教室-㊦、
 食堂-㊧
 都合により変更されることもあります。
 *網かけ部分：今年度は開講されません。

《2018 年度年間授業・行事予定》

4 月			5 月			6 月					
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	日	復活日		1	火	使徒聖ピリポ・ヤコブ		1	金		
2	月	復活後月 入 寮 日		2	水			2	土		①
3	火	復活後火 始 業 礼 拝		3	木			3	日	聖霊降臨後第 2	㊤
4	水	復活後水 9:00 ウ主教碑清掃		4	金			4	月		
5	木	復活後木 リトリート		5	土		①	5	火		
6	金	復活後金		6	日	復活節第 6	㊤	6	水		
7	土	復活後土	×	7	月			7	木		
8	日	復活節第 2 実習先教会出席	㊤	8	火			8	金		
9	月	聖マリヤへのみ告げの日		9	水			9	土		①
10	火	1 学期授業開始		10	木	昇天日		10	日	聖霊降臨後第 3	㊤
11	水			11	金			11	月	使徒聖バルナバ	
12	木			12	土		①	12	火		
①	金			13	日	復活節第 7	㊤	13	水		
㊤	土	1 学期教会実習開始	①	14	月			14	木		
15	日	復活節第 3	㊤	15	火			15	金		
火	月			16	水			16	土		①
水	火			17	木			17	日	聖霊降臨後第 4	㊤
木	水			18	金			18	月		
金	木			19	土		①	19	火		
土	金			20	日	聖霊降臨日	㊤	20	水		
日	土		①	21	月			21	木		
月	日	復活節第 4	㊤	22	火			22	金		
23	月			23	水			23	土		①
24	火			24	木			24	日	聖霊降臨後第 5	㊤
25	水	福音記者聖マルコ		25	金			25	月	洗礼者聖ヨハネ誕生日	
26	木			26	土		①	26	火		
27	金			27	日	三位一体主日	㊤	27	水		
28	土		①	28	月			28	木		
29	日	復活節第 5	㊤	29	火			29	金	使徒聖ペテロ・パウロ	
30	月			30	水			30	土		①
				31	木						

7 月				8 月				9 月			
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	日	聖霊降臨後第 6	㊦	1	水			1	土		
2	月			2	木			2	日	聖霊降臨後第 15	
3	火			3	金			3	月	入 寮 日	
4	水			4	土			4	火	リトリート	
5	木			5	日	聖霊降臨後第 11		5	水	2 学期授業開始	
6	金			6	月	主イエス変容の日		6	木		
7	土		①	7	火			7	金		
8	日	聖霊降臨後第 7	㊦	8	水			8	土		×
9	月			9	木			9	日	聖霊降臨後第 16 他教派礼拝出席	×
10	火			10	金			10	月		
11	水			11	土			11	火		
12	木			12	日	聖霊降臨後第 12		12	水		
13	金			13	月			13	木		
14	土	1 学期授業終了	①	14	火			14	金		
15	日	聖霊降臨後第 8 1 学期教会実習終了	㊦	15	水	主の母聖マリヤ		15	土	2 学期教会実習開始	①
16	月			16	木			16	日	聖霊降臨後第 17	㊦
17	火			17	金			17	月		
18	水			18	土			18	火		
19	木	試 験 週		19	日	聖霊降臨後第 13		19	水		
20	金			20	月			20	木		
21	土		×	21	火			21	金	福音記者使徒聖マタイ	
22	日	聖霊降臨後第 9	×	22	水			22	土		①
23	月	マグダラの聖マリヤ		23	木			23	日	聖霊降臨後第 18	㊦
24	火	補講・面接		24	金	使徒聖バルトロマイ		24	月		
25	水	使徒聖ヤコブ 終業礼拝		25	土			25	火		
26	木			26	日	聖霊降臨後第 14		26	水		
27	金			27	月			27	木		
28	土	出 寮 日		28	火			28	金		
29	日	聖霊降臨後第 10		29	水			29	土	聖ミカエルおよび諸天使	①
30	月			30	木			30	日	聖霊降臨後第 19	㊦
31	火			31	金						

10 月				11 月				12 月			
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	月			1	木	諸聖徒日		1	土	2 学期授業終了	×
2	火			2	金	リセス		2	日	降臨節第 1	㊤
3	水			3	土		①	3	月		
4	木			4	日	聖霊降臨後第 24	㊤	4	火		
5	金			5	月			5	水	試 験 週	
6	土		①	6	火			6	木		
7	日	聖霊降臨後第 20	㊤	7	水			7	金		
8	月			8	木			8	土		①
9	火			9	金			9	日	降臨節第 2 2 学期教会実習終了	㊤
10	水			10	土		①	10	月		
11	木			11	日	聖霊降臨後第 25	㊤	11	火	補講・面接	
12	金			12	月			12	水	終業礼拝	
13	土		①	13	火			13	木		
14	日	聖霊降臨後第 21	㊤	14	水			14	金		
15	月			15	木			15	土	出 寮 日	
16	火			16	金			16	日	降臨節第 3	
17	水			17	土		①	17	月		
18	木			18	日	聖霊降臨後第 26	㊤	18	火		
19	金			19	月			19	水		
20	土		①	20	火			20	木		
21	日	聖霊降臨後第 22	㊤	21	水			21	金	使徒聖トマス	
22	月			22	木			22	土		
23	火			23	金			23	日	降臨節第 4	
24	水			24	土		①	24	月		
25	木			25	日	降臨節前主日	㊤	25	火	降誕日	
26	金			26	月			26	水	聖ステパノ	
27	土		①	27	火			27	木	福音記者使徒聖ヨハネ	
28	日	聖霊降臨後第 23	㊤	28	水			28	金	聖なる幼子	
29	月	使徒聖シモン・聖ユダ		29	木			29	土		
30	火	リセス		30	金	使徒聖アンデレ		30	日	降誕後第 1	
31	水							31	月		

1 月				2 月				3 月			
日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実	日	曜	予 定	実
1	火	主イエス命名日		1	金			1	金	試験準備週(授業なし 2018年度のみ)	
2	水			2	土	被献日	①	2	土	▼	①
3	木			3	日	顕現後第4	㊤	3	日	大斎節前主日	㊤
4	金			4	月			4	月		
5	土			5	火			5	火	▲▲	
6	日	顕現日		6	水			6	水	大斎始日	
7	月	入 寮 日		7	木			7	木	▼	総合試験
8	火	リトリート		8	金	3学期授業終了		8	金	試験週	
9	水	3学期授業開始		9	土		①	9	土	▼	①
10	木			10	日	顕現後第5	㊤	10	日	大斎節第1 3学期教会実習終了	㊤
11	金			11	月	▲		11	月		
12	土		×	12	火			12	火	補講・面接	
13	日	顕現後第1 他教派礼拝出席	×	13	水			13	水		
14	月			14	木			14	木		
15	火			15	金	海外研修		15	金	卒業礼拝	
16	水			16	土		×	16	土		
17	木	入学願書締切		17	日	顕現後第6	×	17	日	大斎節第2	
18	金			18	月			18	月		
19	土	3学期教会実習開始	①	19	火			19	火	聖ヨセフ	
20	日	顕現後第2	㊤	20	水			20	水		
21	月			21	木			21	木		
22	火			22	金			22	金		
23	水			23	土	▼(予備日・休講日)	×	23	土		
24	木			24	日	顕現後第7	㊤	24	日	大斎節第3	
25	金	使徒聖パウロ回心		25	月	使徒聖マッテヤ		25	月	聖マリヤへのみ告げの日	
26	土		①	26	火	▲		26	火		
27	日	顕現後第3	㊤	27	水	試験準備週(授業なし 2018年度のみ)		27	水		
28	月			28	木			28	木		
29	火							29	金		
30	水	入学試験						30	土		
31	木							31	日	大斎節第4	

《ウイリアムス神学館の礼拝》

礼拝は、ウイリアムス神学館における神学教育を根底から支える最も大切な行為である。礼拝を意味する様々な言葉は、「仕える」とことに関連している。わたしたちは毎日の不断の礼拝生活を通して、神とこの世界に仕えることを体験的に学び、また将来み心ならば、奉仕職としての職務を果たすための備えをする。

神学生は祈祷書等のルブリックおよび下記の諸注意をよく理解し、十分な準備をして礼拝に臨むことが望まれる。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
7:00	各自	9:00- 聖餐式	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り
12:05	各自	昼の祈り	嘆 願	昼の祈り	嘆 願	昼の祈り
18:00	各自	夕の礼拝／祈り	夕の礼拝／祈り	唱詠夕の礼拝	夕の礼拝／祈り み言葉の礼拝(月1回)	(教会実習のない日) 各自

I 神学館共同体礼拝の約束事

1. 週 日

- (1) 朝夕の礼拝と朝夕の祈りを隔週で用いる。
- (2) 朝の祈りの時、聖歌は第1日課の後で用いる。夕の祈りの時、「聖書（新約聖書）」および聖歌は朝の祈りに準ずる。
- (3) 詩編は座って唱える。詩編・賛歌などの「||」は少し間を開け、句読点は続けて唱える。詩編・賛歌は司式者側と日課朗読者側とで交互に唱える。歌う場合には、句読点で少し伸ばし、「||」の間は息継ぎ程度にする。
- (4) 毎月1回、金曜日の夕は2学期より「み言葉の礼拝」を行う。これは主日・祝日に用いるものであるが、神学館ではこの日に用いる。ただし該当する金曜日が大祝日で朝に聖餐式を行った時は、夕の礼拝を行う。(1学期は、朝夕の礼拝／祈りを行う)
- (5) 第4土曜日は朝の祈りの週であっても朝の礼拝とし、「共同懺悔」を行う。
- (6) 試験週直前の土曜日、または教会実習が休みの土曜日の「夕の礼拝／祈り」は、各自で行う。
- (7) 補講／面接期間中は、朝夕の礼拝・昼の祈りを行う。
- (8) 聖職按手節、昇天前祈祷日は「用いてもよい」節・日であるが、神学館の礼拝では該当する祈りを代祷の個所で祈る。(聖職按手節は聖職按手、聖職のみに限定されず、広く神の民全体の様々な職務のための節なので、ふさわしい祈りを諸祈祷、特祷その他より探す。また昇天前祈祷日には「産業と産物のため」の祈りを用いる。)
- (9) 小祝日の特祷を用いる場合は、「朝の礼拝／祈り」の代祷の箇所で行う。
- (10) 聖餐式の前夕には、「夕の礼拝／祈り」に引き続き、「聖餐準備の式」を行う。
- (11) 「聖餐準備の式」は、1. または2. と、3. 4. 5. のどれか一つを組み合わせるか、6. を単独で用いる。

2. 祝 日

- (1) 大祝日には火曜日を除き午前7時より聖餐式を行う。
月曜日・休暇の日が大祝日に当たる場合も午前7時の聖餐式を行う。
この聖餐式は2018年度に限り主教座聖堂で行う。
- (2) 昼の祈りでは「祈りましょう」の後に、嘆願では104頁で、祝日の特祷を入れるようにする。
- (3) 夕の礼拝で祝日の聖語を用いる場合は「奉献唱、特別叙唱」(188頁以下)のルブリックに注意する。
- (4) 「前夕のある祝日」に注意する。

3. 一般的約束事

- (1) 現行祈祷書の作成精神に従い、ルブリックに精通し、いろいろな工夫、試みを行うようにする。
- (2) 祈祷書をよく読み、どこにどのような祈りがあるか知っておき、いかなる時にもふさわしい祈りを用いられるようにする。
- (3) ゴシック体の文章は、初めから唱える。
- (4) 祈祷書中の人称（兄弟、彼等）は、祈りの内容に応じてふさわしく読み替える。
- (5) 日課朗読者は、あらかじめ朗読する箇所を読んでおき、礼拝前には聖書の箇所を確認（しおりを挟む等）して、読み間違いのないように注意する。
- (6) 聖餐式のサーバーは前日に司式者に連絡を取り、祭服など必要事項を確認しておく。
- (7) 代祷は、必ず祈りを求める内容を具体的にアナウンスする。代祷の「祈祷文」は「諸祈祷」（106頁以下）だけでなく、内容に応じて「特祷」その他祈祷書全体から選び、多少の字句の修正を行って用いる習慣をつける。
- (8) 世界諸教会の代祷は、まず聖公会名（管区名）等を言ってから教区名に移る。国内の場合は、教区名を言ってから教会名に移る。
- (9) 聖餐式中の代祷では、初めに（「執事」の呼びかけの後）代祷項目をあげる。または（ことに――）の部分に（例：ことに〇〇聖公会△△教区）を具体的に入れる。
- (10) 聖餐式中の代祷で、（ことにわたしたちの主教――）の――の部分は、「ステパノ」と呼ぶ。
- (11) 礼拝中の個人の所作については、各自の判断に委ねられる。

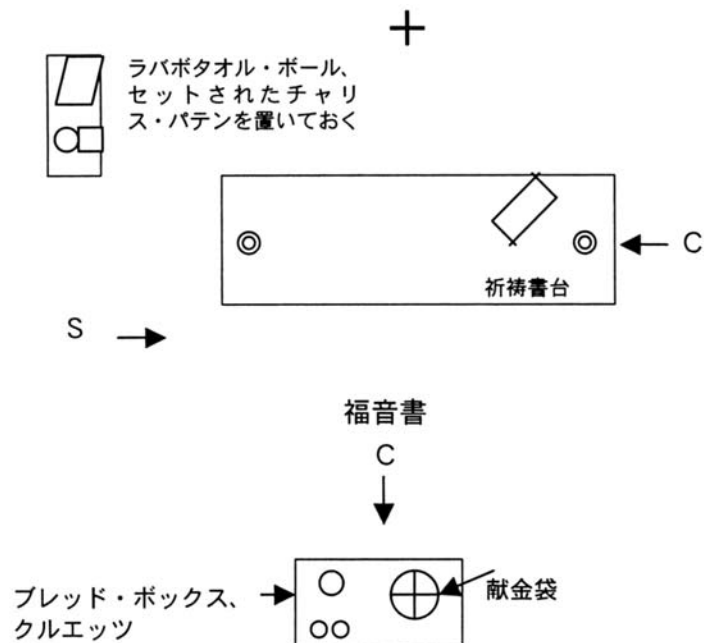
II 神学生個人の祈り

わたしたちは神学館共同体としての礼拝によって養われると同時に、神学生一人ひとりの個人の祈りによっても養われる。個人の祈りは共同体の営みを損なわない限り、尊重され、推奨される。そのためにチャペルを用いることができる。

III 神学館チャペルでの聖餐式の献げ方

◇参入よりみ言葉の部分まで

C : Celebrant (司式者) S : Server (侍者) L : Lector (聖書朗読者)



- (1) 入堂：聖卓の前で礼をし、左右に分かれる。
- (2) 旧約聖書朗読者は、会衆席より使徒書側へ行き、朗読する。
- (3) 「詩編」はSが先唱し、S側と司式者側とで交互に歌う。「栄光の唱」は用いない。詩編は黙想型の短いものを用いる。
- (4) 「詩編」の後、Sは使徒書を使徒書側で朗読する。
- (5) Cは、会衆席の中央で福音書を朗読する。
- (6) 代祷は会衆席より行う。
- (7) 平和の挨拶は全員で握手する。

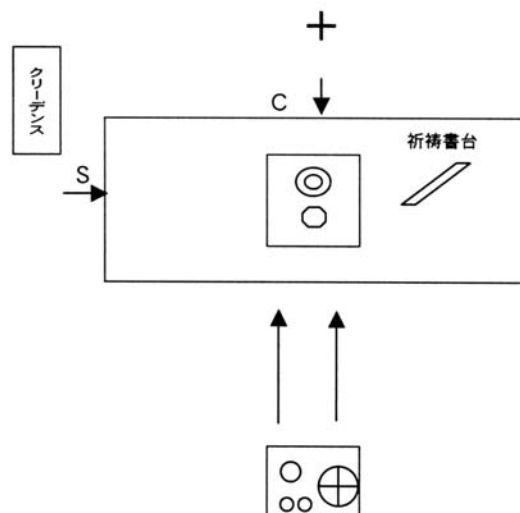
<大祝日の聖餐式を主教座聖堂で行う場合>

- *ベストリーより入堂し、聖卓の中央前で礼をして左右に分かれる。
- *聖書日課朗読・代祷は自席で立つて行う。
- *供え物はクリーデンス・テーブルに用意する。主教座聖堂での聖餐式では献金は行わない。
- *感謝聖別では聖卓を囲まず自席で祈る。陪餐時に聖卓をU字形に囲む。
- *他は、神学館チャペルでの所作と同じ。問題があればその都度、教員と学生で考えて解決する。
- *サーバーの準備・片付けは聖アグネス教会の教役者と相談しながら行うこと。

◇聖餐の部分

【奉献準備】

- (1) Cが奉献唱を唱えた後、Sは聖歌をアナウンスする。
- (2) Sは、セットされたチャリス・パテンをCに渡す。
- (3) 代祷朗読者は、ブレッド・ボックス、クルエッツをSに渡す。
- (4) Sは、ブレッド・ボックス、クルエッツの盆をクリーデンス・テーブルに置く。
- (5) Sは、ブレッド・ボックスからパンを、またクルエッツをCへ。
- (6) 奉献聖歌最終節で、旧約聖書朗読者は信施（袋）をSに渡し、そのまま待つ。その時、代祷朗読者は旧約聖書朗読者と並んで立つ。奉献担当者は聖歌集を持参する。
- (7) Sは、信施をCに渡す。(または、そのまま捧げ持っている。)
- (8) 奉献の祈りの後、Cは洗手する。洗手の間に、全員聖卓を囲んで立つ。(祈禱書、聖歌集を持参)
- (9) Sは、Cの洗手の後、信施をクリーデンス・テーブルに置く。



【感謝聖別】

- (1) 全員、祭壇上に注目して式を続行する。
- (2) 感謝聖別文は I と II を隔週で用いる。Cはジェネフレクションはしない。また制定語の所作は自由。
- (3) Sは「サンクトゥス」「アニュス・デイ」を、Cは「記念唱」を先唱する。
- (4) 降臨節と大斎節には「近づきの祈り」も用いる。

【陪餐以降】

- (1) アブリューションの後、Sはセットされたチャリス・パテンをCより受け取り、クリーデンス・テーブル上に置く。
- (2) 退堂聖歌の1節を歌い終わったら、全員聖卓に礼をし、歌いながら自席に戻る。

※ 5～8頁の諸事項は、ウイリアムス神学館での約束事である。実習教会や出身教会（教区）にもそれぞれのリチュアルがあるので、それに従うこと。

《2018年度 教授構成》

教授氏名	所 属	担 当 講 義 ()内は本年度休講、丸ゴシックは伝道師コース
高 地 敬 <small>こうち たかし</small>	京都教区主教・理事長	(ギリシャ語) I
黒 田 裕 <small>くろだ ゆたか</small>	京都教区司祭・館長・	文献講読、英書講読、説教論、牧会学、聖書研究、 聖書内容試験、夏期実習、 (教会問答、聖公会入門、奨励の意味と実践)
勝 村 弘也 <small>かつむら ひろや</small>	神戸松蔭女子学院大学 名誉教授	旧約神学 (旧約入門、旧約釈義)
樋 口 進 <small>ひぐち すずむ</small>	夙川学院短期大学教授	今年度休講 (旧約釈義、旧約神学)
前 川 裕 <small>まえかわ ゆたか</small>	関西学院大学准教授	新約神学 (新約入門)
嶺 重 淑 <small>みねしげ きよし</small>	関西学院大学教授	(新約釈義)
岩 城 聡 <small>いわき あきら</small>	大阪教区司祭	聖公会論、教理学 I・II、今日の宣教、
クラス シュベネマン	同志社大学名誉教授	キリスト教倫理学、
菊 地 伸二 <small>きくち しんじ</small>	彦根聖愛教会信徒 名古屋柳城短期大学教授	ギリシャ語 II、ギリシャ語 III (教会史、哲学入門、ラテン語 I、ラテン語 II)
辻 彩乃 <small>つじ あやの</small>	川口基督教会信徒	教会音楽
下 田 屋 一朗 <small>しもだや いちろう</small>	京都教区司祭	ヘブライ語 I、(ヘブライ語 II)
浦 地 洪一 <small>うらぢ こういち</small>	京都教区司祭	法憲法規特別講義
出 口 創	京都教区司祭	日本キリスト教史
林 和 宏	神戸教区司祭	礼拝学 II
麓 敦 子	京都教区司祭	礼拝学 III、聖書内容試験 II、(礼拝学入門)
鈴 木 恵一 <small>すずき けいいち</small>	京都教区司祭	(聖書内容試験 I)

職員と協力スタッフ

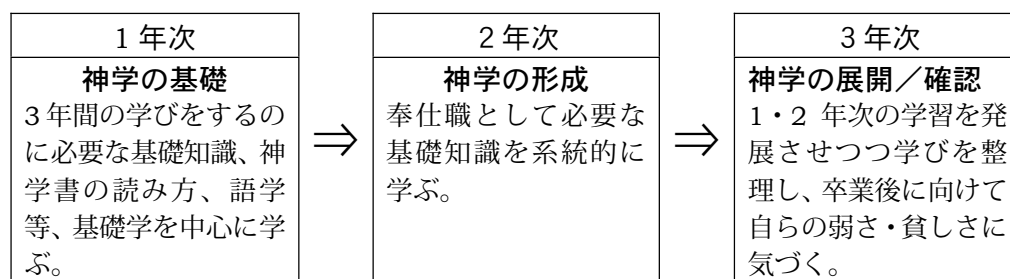
氏 名	所 属	担 当
鈴 木 恵一 <small>すずき けいいち</small>	京都教区司祭	主事
麓 敦 子	京都教区司祭	事務補佐
岡 野 友二 <small>おかの ゆうじ</small>	京都聖ヨハネ教会信徒	図書館／事務補佐
林 徹 <small>はやし とおる</small>	聖光教会信徒	後援会会計担当
羽根美恵子、和田 信子、田中 圭子 <small>はねみえこ、わた のぶこ、たなか けいこ</small>		食事担当

《ウイリアムス神学館の教育課程》

1. 授 業 構 成

学年	旧約学	新約学	教理学	教会史	礼拝学	宣教 牧会	基礎学/語学
1	旧約入門	新約入門		教会史	礼拝学Ⅰ		文献講読 英書講読 哲学入門 ギリシャ語Ⅰ バイコン
2	旧約神学 旧約積義 (隔年)	新約神学 新約積義 (隔年)	教理学Ⅰ 聖公会論	日本キリス ト教史	礼拝学Ⅱ	臨床牧会訓練	ギリシャ語Ⅱ バイコン (ラテン語Ⅰ) (ヘブライ語Ⅰ)
3			教理学Ⅱ キリスト教 倫理学				説教論 牧会学 今日の宣教
全					教会音楽	教会実習 夏期実習 特別講義	聖書研究 教会問答

※ゴシック体は必修科目、(明朝体)は選択科目



- ① 3年間の教育課程は、奉仕職として立てられるのに必要と思われる必修科目と、語学関係の選択科目からなっている。神学するための基礎的な力をつけ、できる限り自分の言葉で語ることが重視される。
- ② 全学年共通科目は必修で3年間を通して履修する。ことに教会実習はテキスト学習だけでは身につけることの出来ないコンテキスト学習を、宣教の第一線で働く牧師の生き方を通して身につける。
- ③ 神学生の資質・能力に併せて、必要に応じて個人指導(チュートリアル)を行うことがある。
- ④ 神学の学びは教室や実習だけでなく、寮における共同生活、交わり、礼拝を通して形成されることを重視する。
- ⑤ 学年は3学期制で構成され、毎年4月1日より始まり、翌年の3月31日に終る。
 1学期：4月上旬より7月中旬まで、
 2学期：9月第1月曜日より12月中旬まで、
 3学期：1月上旬より3月中旬まで
- ⑥ 授業日数は、オリエンテーション、夏期実習(海外研修)、リセス、試験・レポート・学期末面接期間を除く、年間30週を目処とする。

2. 学期末試験について

- ① 定期試験は、各学期末に行う。定期試験を受けなかった者または合格しなかった者については、事情によって再試験を行うことがある。
- ② 試験方法は、筆記・レポート等により、担当教員が指定する。
- ③ レポートの提出日時は厳守しなければならない。提出方法は担当教員が指定する。
- ④ 評価は以下の5段階で行い、D以上を合格とする。ただしA~Dについては「+」「-」で表示することもある。なお聖書内容試験に限り50点(E)以上で合格とする。

A (100~90点) B (89~80点) C (79~70点) D (69~60点) E (59点以下)

3. 神学生の区分

本館は全寮制であるので、学生の就学状態によって以下のように区分する。

- ① 本科生：3年間在寮し、所定の全課程を履修する者。
- ② 特別聴講生：3年間在学し、所定の全課程を履修する者。
- ③ 教区派遣科目聴講生：1年以上在学し、当該教区と神学館の合意のもとに複数科目を履修する者。

4. 卒業認定について

本科生で、以下の条件を満たす者について卒業を認定し、卒業証書を授与する。

- ① 所定の全課程に合格していること。
- ② 3年間、寮生活をしていること。
- ③ 卒業小論文を提出していること。

5. 修了・修業認定について

以下の条件を満たす者について認定する。

- ① 特別聴講生で、所定の全課程に合格した者は修了を認定し、修了証書を授与する。
- ② 教区派遣科目聴講生で、当該教区との協議により指定された科目を合格した者は修業を認定し、修業証書を授与する。
- ③ 本科生、特別聴講生で、所定の課程のうち9割を合格した者は修業を認定し、修業証書を授与する。

6. 総合試験について

総合試験は、神学生が3年間の学びの総括的検証を行い、卒業後の継続的自己研鑽に資するためのものである。

- ① 総合試験の受験者
 - a. 本科生で、3年次2学期末の成績が所定の全課程を合格している場合は受験する。
 - b. 特別聴講生で、3年次2学期末の成績が所定の全課程を合格している場合は受験する。
 - c. 教区派遣科目聴講生で当該教区との協議に基づく指定された科目の2学期末の成績が全て合格している者、または上記5-③に該当する者は、本人が希望すれば受験できる。
- ② 総合試験は、「旧約聖書」「新約聖書」「教理」「教会史」「礼拝」「宣教・牧会」の6科目について行う。
- ③ 総合試験は、3月上旬に行う。評価は担当教授会で行う。

7. 伝道師養成コース

① 目的

このコースは伝道師を志願する者が、その職務を果たすのに必要な学識を習得し、礼拝司式者として必要な知識・心構えを身につけるためのものである。

② 修業年限

1年間（原則全寮制。事情によって通学も可とする）

③ 入学（出願）資格

法規第43条・44条により、伝道師を志願し、教区主教より本学での教育を命じられた者。

④ カリキュラム

このコースのカリキュラムは、必修科目と選択必修科目からなる。選択必修科目は最低1科目を履修しなければならない。それ以外に本科生の科目を履修することも可能である。

各科目は、1年間の通年、各学期ごと、前期（4月～9月末）・後期（10月～3月）に分かれており、本科生と共通科目、このコース単独の科目がある。

必修科目	共通・通年	旧約入門、新約入門、礼拝学Ⅱ、教会音楽、聖書研究、教会実習、夏期実習、
	単・前／後	前／礼拝学入門、後／牧会学概論と法憲法規
	単・1／2／3	1／教会問答、2／聖公会入門、3／奨励の意味と実践、
選択必修科目	共通・通年	文献講読、英書講読、教会史、教理学Ⅰ、ギリシャ語Ⅰ、聖書内容試験、

⑤ 学期末試験について

i) 定期試験は、各学期末に行う。定期試験を受けなかった者または合格しなかった者については、事情によって再試験を行うことがある。

ii) 試験方法は、筆記・レポート等により、担当教員が指定する。

iii) レポートの提出日時は厳守しなければならない。提出方法は担当教員が指定する。

iv) 評価は以下の5段階で行い、D以上を合格とする。ただしA～Dについては「+」「-」で表示することもある。なお、聖書内容試験は50点（E）以上で合格とする。

A（100～90点） B（89～80点） C（79～70点） D（69～60点） E（59点以下）

⑥ 修了認定について

所定の課程に合格した者は修了を認定し、「伝道師養成コース修了証書」を授与する。

《2018年度講義科目》

★ 必修科目 ★	★ 伝道師養成コース必修科目 ★
1 年 次	旧 約 入 門 [勝村] 休講
文 献 講 読 [黒田] 休講 伝選	新 約 入 門 [前川] 休講
英 書 講 読 [黒田] 休講 伝選	(前期) 礼 拝 学 入 門 [] 休講
哲 学 入 門 [菊地] 休講	(後期) 牧 会 学 概 論 と 法 憲 法 規 [浦地] 休講
旧 約 入 門 [勝村] 休講	礼 拝 学 II [林]
新 約 入 門 [前川] 休講	(1学期) 教 会 問 答 [黒田] 休講
教 会 史 [菊地] 休講 伝選	(2学期) 聖 公 会 入 門 [黒田] 休講
礼 拝 学 I [] 休講	(3学期) 奨 励 の 意 味 と 実 践 [黒田] 休講
ギリシャ語 I [高地] 休講 伝選	
聖書内容試験 I [鈴木] 休講 伝選	【伝選】は伝道師コースの選択必修
2 年 次	★ 選 択 科 目 ★
教 理 学 I [岩城] 伝選	※ 選択科目中の語学は在学中どれかを努めて履修することが望ましい。
聖 公 会 論 [岩城]	2 年 次
日本キリスト教史 [出口]	ヘブライ語 I [下田屋]
礼 拝 学 II [林]	ラテン語 I [菊地] 休講
ギリシャ語 II [菊地]	3 年 次
臨床牧会訓練 [パプテト病院]	ギリシャ語 III [菊地] 休講
聖書内容試験 II [麓]	ヘブライ語 II [下田屋]
2・3年次合同 (隔年)	ラテン語 II [菊地] 休講
旧 約 神 学 [勝村]	★ 全学年・伝道師コース共通科目 ★
旧 約 釈 義 [勝村]	教 会 音 楽 [辻]
新 約 釈 義 [嶺重] 休講	聖 書 研 究 [黒田] 1～2 学期
新 約 神 学 [前川]	実 践 神 学 特 講 [黒田] 3 学期
3 年 次	教 会 実 習 [黒田]
教 理 学 II [岩城]	人 間 関 係 論 [] 休講
キリスト教倫理学 [シュペネマン]	★ その他 ★
礼 拝 学 III [麓]	集中講義 (ハラスメント防止関係)
説 教 論 [黒田]	神学館講演会
牧 会 学 [黒田]	
今日の宣教 [岩城]	
法憲法規特講 [浦地]	
卒業小論文	
総合試験	

《2018年度学年別講義内容》

《1 年》

文 献 講 読 (黒田 裕)

本年度休講

英 書 講 読 (黒田 裕)

本年度休講

哲 学 入 門 (菊地 伸二)

本年度休講

旧 約 入 門 (勝村 弘也)

本年度休講

新 約 入 門 (嶺重 淑)

本年度休講

教 会 史 (菊地 伸二)

本年度休講

礼 拝 学 I ()

本年度休講

ギリシャ語 I (高地 敬)

本年度休講

聖書内容試験 I (鈴木 恵一)

本年度休講

《2 年》

旧 約 神 学 -2・3年共通 (勝村 弘也)

本年度休講

旧 約 釈 義 -2・3年共通 (勝村 弘也)

I 講義内容・形式

1 学期、旧約原典、古代訳の特徴について概説する。各国語に訳した場合に生じる問題についても例を挙げて説明する。次に創世記1章、22章、十戒などを取り上げる。

2 学期、創世記 1 2 章以下、詩篇、箴言から数箇所を選んでの演習形式の授業。

3 学期、預言書から数箇所を選んでの演習形式の授業。

II. 講義形式・成績評価

講義と受講者による研究発表を併用する。発表内容とともに各学期末に提出するレポートによって成績を評価する。

III. テキスト・参考文献

*ゲルハルト・リートケ著、安田治夫訳『生態学的破局とキリスト教』新教出版社、1989 年

*シュタム、アンドリュウ著、左近淑、大野恵正訳『十戒』新教出版社、1970 年

*B・S・チャイルズ著、近藤十郎訳『出エジプト記下』日本基督教団出版局、2010 年

*『新共同訳旧約聖書注解 II』日本基督教団出版局、1994 年

*『旧約新約聖書大事典』教文館、1989 年

*関谷定夫著『図説 旧約聖書の考古学』ヨルダン社、1986 年勝村弘也著『旧約聖書に学ぶ』日本キリスト教団出版局、1993 年

新 約 神 学 -2・3 年共通 (前川 裕)

I 講義内容

新約聖書文書の神学思想について、思想の歴史的成立順序に従って学ぶ。教科書の内容のまとめを受講生に発表していただき、それをもとに討議を行って理解を深める。参加者の積極的な取り組みに期待する。

II 成績評価

各学期末の試験ないし受講への取り組み等の平常点を総合して評価する。

III テキスト、参考文献

【教科書】

*E・ローゼ『新約聖書神学概説』日本キリスト教団出版局、1982 年（オンデマンド 2006 年）。（講義のテキストとして使用するので各自入手すること。旧版・オンデマンドいずれでも差し支えない）

【参考文献】

*講義中に適宜提示する。

新 約 釈 義 -2・3 年共通 (嶺重 淑)

本年度休講

教 理 学 I (岩城 聰)

I 講義内容

教理学の方法論、基本的な考え方を分かち合い、その後、歴史的に形成されてきた教理学の基本問題について理解を深める。

主な項目：

①教理学とは何か

②何のために教理学を学ぶのか（考え方・学の方法論）

テキストとコンテキスト／相関の方法（二極的方法）／聖書と理性と伝統など

③教理学の諸問題

神論（三一論、キリスト論、予定、啓示）／創造論（Imago Dei、墮罪論）／救済論・義認論／聖霊論（教会論）／終末論（神の国論）／使徒信経とニケヤ信経／サクラメント論／科学と宗教（環境問題を含む）など

II. 講義形式・成績評価

授業は基本的に講義とするが、適宜学生の研究発表を求める。評価は、授業への参加度、各学期末の筆記試験（記述）に基づいて行う。

III. 必読文献・参考文献

<必読文献>

*A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』（2002、教文館）

*A・リチャードソン『キリスト教教理入門』

<参考図書>

*佐藤敏夫『キリスト教神学概論』（1994、新教出版社）

*教義学講座1・2・3（1970、教団出版局）

*J・ペリカン『キリスト教の伝統－教理発展の歴史』1～5巻（教文館、2006～2008年）

*J.N.D ケリー『初期キリスト教教理史』上下（2010、一麦出版社）

*岩城聡『聖公会の公会問答－信仰の手引き』（2013、聖公会出版）

*『1998年ランベス会議報告・決議・牧会書簡』

聖公会論（岩城 聡）

I 講義内容

聖公会のルーツを探ると共に、その発展の節目、節目を神学的に整理し、現代に至る聖公会の特質を明らかにする。

<主な項目>

アングリカニズムの源流（ケルトの霊性、ベネディクト会の伝統、聖オーガスティン、修道士会の歴史）／宗教改革の背景（ロラード派、反聖職者主義など）／イングランド宗教改革／ヴィアメディアの神学／ジョン・ウェスレーのメソジスト運動／19世紀のアングリカニズム（キリスト教社会主義、オックスフォード運動、ゴア）／アメリカ聖公会の成立／リベラル・カトリシズム／テンプル、ラムゼー／現代のアングリカニズム／20世紀のイングランド教会とアメリカ聖公会

II. 講義形式・成績評価

授業は基本的に講義とするが、適宜、学生の研究発表や文献購読を行う。評価は、授業への参加度、各学期末の筆記試験（記述）に基づいて行う。

III. 必読文献・参考文献

<必読文献>

*塚田理『イングランドの宗教』教文館、2004年

*八代崇『新カンタベリー物語』聖公会出版、1987年（絶版）

－入手できない場合には、館長に申し出ること。

*マーク・チャップマン『聖公会物語』かんよう出版、2013年

*塚田理『聖公会の伝統を探る』聖公会出版、2012年

*西原廉太『聖公会が大切にしてきたもの』聖公会出版、2010年

*西原廉太『続・聖公会が大切にしてきたもの』聖公会出版、2012年

*D.L.ホームズ『アメリカ聖公会小史』（かんよう出版・2018年夏刊行予定）

<参考図書>

*J.R.H.ムアマン『イギリス教会史』八代 崇他訳、聖公会出版、1991年

*『宗教改革著作集11、12』教文館、1984年、1986年（特に巻末の解説）

*八代崇『イギリス宗教改革史』創文社、1979年

*W・J・ウルフ『聖公会の中心』西原廉太訳、聖公会出版、1995年

*『1998年ランベス会議報告・決議・牧会書簡』日本聖公会管区事務所、2001年

- * 祈祷書の『公会問答』
- * 岩城聰『聖公会の公会問答―信仰の手引き』聖公会出版、2013年
- * 西原廉太『聖公会の職制論―エキュメニカル対話の視点から』(2014、聖公会出版)
- * ポールエイヴィス『教会の働きと宣教』(2012、聖公会出版)

日本キリスト教史 (出口 創)

I 講義内容

前半で日本キリスト教史通史を扱い、後半で日本聖公会史を扱う。

II 評価方法

授業への参加度と期末レポートによって評価する。

III テキスト・参考文献

<教科書・必携書>

- * 日本聖公会歴史編纂委員会編『日本聖公会百年史』日本聖公会教務院文書局、1959
- * 日本聖公会歴史編纂委員会編『あかしびとたち』日本聖公会出版事業部、1974
- * 鈴木範久『日本キリスト教史物語』教文館、2001
- * 鈴木範久『日本キリスト教史 年表で読む』教文館、2017

<参考文献>

- * 大江満『戦時下の日本における教会観の相克 日本聖公会合同問題』名古屋聖マタイ教会、1985
 - * 高瀬弘一郎『キリシタンの世紀』岩波書店、1993
 - * 同志社大学人文科学研究所編『日本プロテスタント諸教派史の研究』、1997
 - * 大江満『宣教師ウイリアムズの伝道と生涯』刀水書房、2000
 - * 大江満『日本聖公会史の虚像と実像 1999年秋のキリスト教講座講演録』日本聖公会京都教区京都伝道区信徒伝道協議会、2002
 - * 日本キリスト教歴史大事典編集委員会編『日本キリスト教史年表改訂版』教文館、2006
 - * 浦地洪一『日本聖公会 150年の航跡』日本聖公会管区事務所、2009
 - * キリスト教史学会編『宣教師と日本人』教文館、2012
 - * 岡田明『日本史教科書の中のファンタジー』いのちのことば社、2014
 - * キリスト教史学会編『戦時下のキリスト教』教文館、2015
- その他、適宜紹介する。

礼 拝 学 II (林 和宏)

I 講義内容

日本聖公会現行祈祷書に則して、1)「入信の式」、2)「朝夕の礼拝」、3)御言葉の礼拝、4)「嘆願」、5)「教会暦」、6)「葬送の式」について学ぶ。方法論的には各テーマについて、その歴史を概観し、神学的考察を行う。基本的に講義形式で行う。

II 評価方法

記述式テストまたはレポート、授業への参加度で評価する。

III テキスト・参考文献

【教科書】

* 必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】(必ずしも購入する必要はない。適宜、コピー配布する。洋書についても適宜、コピー又は抄訳したものを配布する。)

- * P.F.ブラッドショー(荒瀬牧彦訳)『初期キリスト教の礼拝』、日本キリスト教団出版局、2006年

- *A.ユングマン (石井祥裕)『古代キリスト教典礼史』2000
- *土屋吉正『暦とキリスト教』、オリエンズ研究所、2015(増補改訂版)
- *森 紀旦『主の御言葉 - 教会暦・聖餐式聖書日課・特祷 -、聖公会出版、2000
- *K. H.ビーリッツ(松山與志雄訳)『教会暦』 - 祝祭日の歴史と現在 - 教文館、2003
- *日本カトリック典礼委員会・編『キリストの神秘を祝う - 典礼暦年の霊性と信心、カトリック中央協議会、2015
- *J.マッコリー(大隅啓三訳)『礼拝と祈りの本質』、ヨルダン社、1976
- *K. Steavenson, The First Rites-Worship in the Early Church, Marshall Pickering, 1989
- *C. Jones et al (ed.), The Study of Liturgy (Revised Edition), SPCK, 1992
- *J. day and B. Gordon-Taylor (ed.), The Study of Liturgy and Worship (An Alcuin guide), SPCK, 2013
- *P. Bradshaw (ed.), A Companion to Common Worship, v.1& v.2, SPCK, 2001(v.1), 2006(v.2)
- *M.J.Hatchett, Commerntary on the American Prayer Book, HarperOne, 1995
- その他、適宜提示する
- *以下は参考まで。
- A. Schmemmann, Of Water & The Spirit-Liturgical study of Baptism, St Vladimir`s seminary press, 1974
- A. Kavanagh, Confirmation: Origin and Reform, Pueblo Publishing Co, U.S. , 1990
- G.P. Jeanes, Signs of God`s Promise- Thomas Cranmer`s Sacramental Theology and the Book of Common Prayer, t&t clark, 2008
- G. Guiver, Company of Voices: Daily Prayer and the People of God, Canterbury Pr Norwich, 2001
- Bradshaw, Daily Prayer in Early Church: A Study of the Origin and Early Development of the Divine Office, Wipf and Stock, 2008
- P. Bradshaw and M. Johnson, The Origins of feast, Fast and Seasons in Early Christianity, SPCK, 2011
- D. Gray, Memorial Service, Alcuin Liturgy Guides 1, SPCK, 2002

ギリシャ語Ⅱ (菊地 伸二)

I 講義内容

ギリシャ語Ⅰの続き。文法書の残りの部分を学んだ後、聖書本文（「ヨハネの手紙一」「マルコによる福音書」を予定している）を講読する。

II 成績評価

文法については筆記試験を行う予定。聖書本文については授業への参加度を重視する。

III テキスト、参考文献

文法：J.Gメイチェン著『新約聖書ギリシャ語原典入門』田辺滋訳、新生宣教団、2000年

新約聖書ギリシャ語テキスト：以下の三書のいずれでも良い。

* *The Greek New Testament*, 4th edition, United Bible Societies, 1993、

* *Novum Testamentum Graece*, Nestle-Aland, 27th edition, 1994、

* *Novum Testamentum Graece*, Nestle-Aland, 28th revised edition, 2012 のいずれでもよい。

臨床牧会訓練 (日本バプテスト病院)

I 講義内容

同志社大学大学院神学研究科実践神学研究演習を履修する同志社大学神学部の学生と共同で、日本バプテスト病院で行う。毎週1回、同病院に通い、オリエンテーションを十分に受けた上で病床訪問し、他者との関わりのあり方を実践とその後の振り返りを通して学んでいく。終末医療、看護などについての講義もある。

的確、かつ真実な援助はけっして自然発生的に実現するものではない。特に人間の危機的状況に対する援助は状況判断の正確さ、求められている援助の内容の把握、必要な関連集団の理解、援助の方法の判断、そして深い精神的思慮に基づく他者への関心が必要とされる。その実現を理想として、このクラスは教育の場を日本バプテスト病院の協力により病院内に置き、患者への援助表現としての訪問をめざしてすすめる。スーパーバイザーの指導の下に非構造的な教育を基本とする。「牧会的」援助者は医療従事者ではないが、患者の「心のニード」に対して医療関係者との密接な協力関係を得て果たすべき重要な役割を担う。そのためにも、医療施設である病院を良く理解すること、患者が置かれているさまざまな心理的状況にたいして繊細な心を持つこと、自分の心の動きを的確にとらえて必要な姿勢を組むことなど共に考え学ばなければならないことは多い。医師、看護婦、ケースワーカーなど、専門家の講義を必要に応じて計画する。

II 成績評価

授業参加度、レポート、会話記録提出度等による。

III 参考文献

- * 関田寛雄他編『総説 実践神学』日本基督教団出版局、1989年
- * 長谷川浩編『行動科学と医療—行動保健医療の実際・電話相談、HIV カウンセリング、死の臨床を例として—』弘文堂、1991年
- * ジェームス・ヒルマン著、樋口和彦訳『内的世界への探求』創元社、1990年
- * 三永恭平『こころを聴く』日本基督教団出版局、1986年
- * ゴードン・C. ハンプリー『新・電話カウンセリング』一麦出版社、1997年
- * 工藤信夫著『援助者とカウンセリング』いのちのことば社、1992年
- * D.アウグスバーガー著『親身に聞く』すぐ書房、1988年
- * 三永恭平他『現代キリスト教カウンセリング、1-3巻』日本基督教団出版局、2002年

聖書内容試験 II (麓 敦子)

I 目標

新約聖書の残りの各書を熟読し、全体の概要を把握すること。1学期末まで。

II 成績評価

試験の平均点と「聖書を読む」姿勢の総合評価を含めて、平均点 50 点以上を合格とする。

III テキスト

- * 『新共同訳聖書』(日本聖書協会)を用いる。

旧約神学 -2・3年共通 (勝村 弘也)

本年度休講

旧約釈義 -2・3年共通 (勝村 弘也)

I 講義内容・形式

1 学期、旧約原典、古代訳の特徴について概説する。各国語に訳した場合に生じる問題についても例を挙げて説明する。次に創世記1章、22章、十戒などを取り上げる。

2 学期、創世記12章以下、詩篇、箴言から数箇所を選んでの演習形式の授業。

3 学期、預言書から数箇所を選んでの演習形式の授業。

II. 講義形式・成績評価

講義と受講者による研究発表を併用する。発表内容とともに各学期末に提出するレポートによって成績を評価する。

III. テキスト・参考文献

*ゲルハルト・リートケ著、安田治夫訳『生態学的破局とキリスト教』新教出版社、1989年

*シュタム、アンドリュウ著、左近淑、大野恵正訳『十戒』新教出版社、1970年

*B・S・チャイルズ著、近藤十郎訳『出エジプト記下』日本基督教団出版局、2010年

*『新共同訳旧約聖書注解 II』日本基督教団出版局、1994年

*『旧約新約聖書大事典』教文館、1989年

*関谷定夫著『図説 旧約聖書の考古学』ヨルダン社、1986年勝村弘也著『旧約聖書に学ぶ』日本キリスト教団出版局、1993年

新約神学 -2・3年共通 (前川 裕)

I 講義内容

新約聖書文書の神学思想について、思想の歴史的成立順序に従って学ぶ。教科書の内容のまとめを受講生に発表していただき、それをもとに討議を行って理解を深める。参加者の積極的な取り組みに期待する。

II 成績評価

各学期末の試験ないし受講への取り組み等の平常点を総合して評価する。

III テキスト、参考文献

【教科書】

*E・ローゼ『新約聖書神学概説』日本キリスト教団出版局、1982年(オンデマンド2006年)。(講義のテキストとして使用するので各自入手すること。旧版・オンデマンドいずれでも差し支えない)

【参考文献】

*講義中に適宜提示する。

新約釈義 -2・3年共通 (嶺重 淑)

本年度休講

教理学 II (岩城 聰)

I 講義内容

ルターなどの宗教改革期の著作、およびバルト、ティリッヒ、ブルトマンなど現代神学を中心に代表的

な神学的著作を読み、理解を深める。日本およびアジアの神学者の著作も読む。

II. 講義形式・成績評価

授業は輪読あるいは演習形式。成績評価は、随時の発表・レポートによる。

III. 必読文献・参考文献

*ツァールント 『20世紀のプロテスタント神学』（1978、新教出版社）＝テキストとして用いる。

*青野太潮 『十字架の神学の成立』『十字架の神学の展開』

*北森嘉蔵『神の痛みの神学』

*ルター『キリスト者の自由』

その他、適宜紹介する。

キリスト教倫理学（シュペネマン・クラウス）

I 講義内容

現代社会が直面している問題をキリスト教の立場から判断できることを目的にして、キリスト教倫理学の根本的な概念と方法を紹介する。第1学期に主に生命倫理の問題、第2学期と第3学期に社会の代表的な問題を取り上げる。

II. 講義形式・成績評価

各学期末のレポートと授業中の発表によって総合的に判断する。

III. 参考文献

授業にプリントを配布し、各テーマについて参考文献を紹介する。

礼 拝 学 III（麓 敦子）

I 講義内容

「聖餐式」「聖職按手式」について学ぶ。神学及び現行祈祷書の内容について学ぶ。また国際聖公会礼拝協議会が出したレポートも学びたい。

II 評価方法

記述式テストまたはレポート、ゼミの準備を含めた参加度で評価する。

III テキスト・参考文献

*『1938年／1959年／1990年日本聖公会祈祷書（改訂第2版第1刷）』

*P.F.ブラッドショー『初期キリスト教の礼拝』荒瀬牧彦訳、

日本キリスト教団出版局、2006年

*W.R.クロケット『ユーカリスト』後藤務訳、聖公会出版、2014年

*聖公会－ローマ・カトリック教会国際委員会『最終報告』

その他、適宜紹介する。

説 教 論（黒田 裕）

I 講義内容

説教作成の方法を、理論的かつ実践的に学んでゆく。年間の前半は、説教の歴史、説教論をめぐる諸問題について考えながら説教作成の基本的な方法を学ぶ。前半で学んだことを踏まえ活かしながら、後半は説教演習を行っていく。

II 講義形式・評価方法

授業は、テーマによって学生の発表形式もしくは講義による。評価は授業への取り組みによって行い、

とくに年度の後半では、演習での発表の内容によっておこなう。

III テキスト・参考文献

- * D. ボンヘッファー『説教と牧会』森野善右衛門訳、新教出版社、1975年
- * 関田寛雄『聖書解釈と説教』日本基督教団出版局、1980年
- * 関田寛雄『「断片」の神学—実践神学の諸問題』日本キリスト教団出版局、2005年
- * エドワーズ、Jr., O.C. 「聖公会の説教とは？」（浜屋憲夫訳）、ウイリアムス神学館紀要『ヴィア・メディア』、2（1998年）
その他は授業中に提示する。
- * 以下は参考まで
- Yngv Brilioth, trans. Karl E. Mattson, A Brief History of Preaching (Philadelphia: Fortress, 1965)
- O. C. Edwards Jr., A History of Preaching, Abingdon Press, 2004
- R. H. Fuller, What is Liturgical Preaching? Studies in Worship and Ministry, London, SCM Press, 1957

牧 会 学 (黒田 裕)

I 講義内容

- 1 学期：「牧会とは何か」についてテキストを中心に学ぶ。
- 2 学期：祈祷書の牧会諸式「懺悔の式」「聖婚式」「誕生感謝の式」「病人訪問の式」について、歴史及び現行祈祷書の内容を概説し、実践的問題について学ぶ。
- 3 学期：「法憲法規（浦地司祭の特別講義）」と牧会実務について学ぶ。

II 評価方法

記述式テストまたはレポート、ゼミの準備を含めた参加度で評価する。

III テキスト・参考文献（※はすぐ使用する）

- * D. ボンヘッファー『説教と牧会』森野善右衛門訳、新教出版社、1975年
- * H.J.M. ヌーウェン『傷ついた癒し人』西垣・岸本訳、日本キリスト教団出版局
- * ケネス・リーチ『牧者の務めとスピリチュアリティ』竹田眞監訳、石井智子訳、聖公会出版、2004年
- * 日本聖公会管区事務所『日本聖公会法憲法規』日本聖公会管区事務所
- * E.H. ピーターソン『牧会者の神学』越川弘英訳、日本キリスト教団出版局、2003年
- * W.H. ウィリモン『牧師』越川弘英・坂口清音訳、新教出版社、2007年
- * W.H. ウィリモン『牧会としての礼拝』越川弘英訳、新教出版社、2002年
- * 飯田徳昭『司牧のよりどころに』聖公会出版、1996年
- * 森 譲『信仰を生活する』『続・信仰を生活する』聖公会出版
- * J.T. マクニール『キリスト教牧会の歴史』吉田信夫訳、日本キリスト教団出版局、1987年
- * 『1938年／1959年／1990年日本聖公会祈祷書（改訂第2版第1刷）』
—その他適宜紹介する。

今日 の 宣 教 (岩城 聡)

I 講義内容

1. 前期(2学期の途中まで)を中心に講義
 - ① 宣教論の歴史の変遷とその問題点
 - ② 聖公会における宣教の五指標
 - ③ 日本聖公会の宣教の歴史と問題点
 - ④ 社会宣教と福音伝道
 - ⑤ 礼拝と宣教
2. 後期は、さまざまな諸課題について学び、フィールドワークもする。全部はできないかも知れない

が、時間の工夫をする。

- ①被差別部落に関連するもの
講義と見学(水平社博物館、リバティ大阪など)
- ②在日韓国・朝鮮人に関連するもの
講義とフィールドワーク(東九条、聖公会生野センターなど)
- ③子どもたちの現状に関するもの
児童養護施設等の訪問と講義
- ④沖縄の基地問題に関するもの
講義(フィールドワークは不可能だが、沖縄週間・沖縄の旅の紹介はできる)
- ⑤その他、時宜にかなった課題があれば取り上げる。

II 評価方法

評価は、授業への参加度、各学期末のレポート等に基づいて行う。

III テキスト・参考文献

必読図書

- *レスリー・ニュービギン『宣教学入門』(2010、日本キリスト教団出版局)=テキストとして用いる。
(*The Open Secret – An introduction to the Theology of Mission*, Lesslie Newbigin)
- *塚田理『日本聖公会の形成と課題』聖公会出版、1978年

参考文献

- *塚田理『初期日本聖公会の形成と今井寿道』(1992、聖公会出版)
- *クリストファー・J・H・ライト『神の宣教』第1巻～第3巻(2012、東京ミッション研究所)
- *WCC 世界宣教・伝道委員会『現代の宣教と伝道』(1991、新教出版社)
- *松田和憲『宣教の神学—パラダイム転換を目指して』(2010、関東学院大学出版会)
- *デイヴィッド・ボッシュ『宣教のパラダイム転換』上・下(1999、新教出版社)
- *ホーケンダイク『明日の社会と明日の教会』(1966、新教出版社)
Mission in the 21st Century, Edited by Andrew Walls and Cathy Ross, 2008, Darton, Longman and Todd
- *J・G・デーヴィス『現代における宣教と礼拝』(岸本羊一訳、1968、日本基督教団出版局)

卒業小論文

I 小論文作成のねらい

神学館の学びを通して得たものを集成し、卒業後の自らの宣教・伝道・牧会活動の指針となりうる課題、あるいは卒業後継続して学ぶ研究テーマの端緒なる課題について、指導教授の指導のもとで作成する。

II 小論文提出資格

本科生は提出しなければならない。特別聴講生および教区派遣科目聴講生は、希望により提出することができる。

III 小論文作成要項

1. 内容・字数

- *内容はねらいに即したものを。
- *字数：20,000字以上 40,000字程度まで

2. テーマの選定等

- *2年次年度末面接時に、館長に希望課題を報告する。
- *3年次5月中旬(連休明け頃)までに、課題を決定し、指導教授を決める。

3. 中間発表(レジュメを学生と教員分、用意すること。)

- *日 時：2017年11月30日(木) 15:00～
- *場 所：ニコルス館食堂

- *内 容：小論文のテーマ、ねらい、概要（目次）等を発表する。
4. 最終発表（内容を1,600字程度のレジюмеにまとめ、学生と教員に配布すること。）
- *日 時：2018年3月1日（木）15:00～
- *場 所：ニコルス館食堂
- *内 容：小論文の内容について発表する。
5. 小論文の提出
- *提出期限：2017年3月15日（木）正午まで（期限厳守）
- *提 出 先：館長まで
- *提 出 物：小論文（プリントアウトしたもの）1部
小論文概要（1,600字まで）1部
- *提出にあたって：小論文概要はヴィア・メディアに掲載するため、ワードファイルで館長までeメールで送付すること。また小論文本体もプリントアウトしたものは別に、eメールで送付すること。（jmyoshida@hotmail.com）
6. 小論文作成にあたっての注意事項
- ① 引用等にあたっては、必ず脚注をつけること。
- ② 脚注はページ末脚注。ワードの場合は「挿入」→脚注で操作できる。
- ③ 論文作成や脚注の作り方（作法）について分からない場合は、担当教員に聞くか、例えば以下のような本を買って学ぶこと。
- *古郡延治『論文・レポートのまとめ方』1997年、筑摩書房、他

《選 択 科 目》

ヘブライ語 I （下田屋一朗）

I 講義内容

旧約聖書を原典で読むために必要なヘブライ語の初級文法を学ぶ。

II 評価方法

授業および課題への取り組みと学期末試験による。

III テキスト・辞書・参考文献

＜テキスト＞

授業で配布するプリントに沿って進める

Biblia Hebraica Stuttgartensia.(BHS) （必携）

＜辞書＞（いずれ必要になるので、どれか一つ持っているといい）

W.L.Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids: Eerdmans, 1988（下記 HALOT の学生向け簡約版。初級段階ではこれで十分）

The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon, (Coded with Strong's Concordance Numbers), Hendrickson Publishers.(BDB)

Koehler & Baumgartner, The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Study Edition, 2 vols. Brill, 2001. (HALOT)

＜参考文献＞

P.H.Kelly, Biblical Hebrew: An Introductory Grammar, Grand Rapids: Eerdmans, 1992.

日本語による文法書としては：左近義慈・本間敏雄『ヒブル語入門[改訂増補版]』教文館

Todd Murphy, Pocket Dictionary for the Study of Biblical Hebrew, IVP Academic, 2003.（文法用語に関

する簡易な辞書)

以下は初級文法を終えてから役に立つもの：

B.M.Waltke and M.O'Connor, An Introduction to Biblical Hebrew Syntax, Eisenbrauns. (WO)

Christo H. J. van der Merwe, Jackie A. Naudé, and Jan H. Kroeze. A Biblical Hebrew Reference Grammar. Biblical Languages: Hebrew 3. Sheffield: Sheffield Academic Press. 1999.(MNK)

E.Kautzsch, translated by A.E.Cowley, Gesenius' Hebrew Grammar, Oxford University Press.(GKC)

P. Joüon-T.Muraoka, A Grammar of Biblical Hebrew, Gregorian & Biblical Press (JM)

ヘブライ語 II (下田屋一朗)

本年度休講

ギリシャ語 III (菊地 伸二)

本年度休講

ラテン語 I (菊地 伸二)

本年度休講

ラテン語 II (菊地 伸二)

本年度休講

《全 学 年 共 通》

教 会 音 楽 (辻 彩乃)

I 講義内容

毎日の礼拝で用いる聖歌やチャントを、伴奏がなくても正しく歌えるように練習します。
それと並行して読譜のための基礎的楽典やソルフェージュ、旧約聖書の時代から現代までのキリスト教音楽史、聖歌の発展史、聖歌集に関する基礎知識などを学んでいきます。
また、礼拝における聖歌の選び方を実践的に学びます。

II 成績評価

各学期末の試験、授業への参加度で評価します。

III テキスト・参考文献

- * 『日本聖公会聖歌集』日本聖公会管区事務所、2006年（第2版が望ましい）
- * 宮崎光『聖公会の聖歌—いのちを奏でよ』聖公会出版、2008年

聖 書 研 究 (1~2 学期) (黒田 裕)

神学生が主体となって聖書の学びを進める。単なる聖書講解ではなく、御言葉を解釈する者と聴く者としての姿勢、また御言葉を聴いてこの世の人々に共感をもって伝えていく者としての姿勢を養う。今年度は「ヨハネによる福音書第8章39節」から学ぶ。

なお、今年度は隔週で実施する。授業日は年間予定表で確認すること。

実 践 神 学 特 講 (3 学期) (黒田 裕)

通常の授業では取り上げられない課題について、神学生が主体となって学びを進める。具体的には「教会問答」を、①信仰論（信経/聖書/主の祈り）、② sacrament論、③教会論/ミニストリー論に分けて順次取り上げ、今年度は「Sacrament論」について研究する。具体的には教会問答の問13~26、

教 会 実 習 (黒田 裕)

指導司祭の指導のもとに、派遣された教会における「神の宣教」(ミッシオ・デイ)に参加し、学び、教育され、将来の叙任された奉仕職(聖職)の働きに備える。

神学生に具体的に期待されることは、

1. 奉仕職とは何か、どのような生き方なのかを、指導司祭の背中(生き方、在りよう)を見て感じる
2. 信徒、求道者の方々との関わり方や関係のあり方を、指導司祭の背中(生き方、在りよう)を見て感じる
3. この世に仕えるものとしての教会のありようを、体験的に学ぶ

である。神学生が実習教会の信徒の方から万が一「先生」と呼ばれても、そのことに違和感を感じ、自らが「仕える者」として召され、遣わされていることを体験的に学ぶことが期待されている。

神学生には「教会実習ノート」が配布され、それに必要事項を毎回書き込み、学期末に提出する。

1年生は土曜日の午後から日曜日の午後にかけて教会実習を行う。2・3年生は日曜日の朝から午後にかけて教会実習を行う。

夏 期 実 習 (黒田 裕)

宣教の現場の中で、人々との出会いを通して自らの生き方、信仰、自分自身に気づき、テキストからの学びと

コンテキスト（文脈・状況）からの学びの統合を試みる。

《伝道師養成コース》

2018年度は休講。

＜今年度休講の科目＞

- 【1年次】 全科目
- 【2年次】 なし
- 【2・3年次】 旧約神学、新約釈義
- 【3年次】 なし
- 【選択科目】 ギリシャ語Ⅲ、ラテン語Ⅰ、ラテン語Ⅱ、ヘブライ語Ⅱ
- 【伝道師養成】 全科目

注) 各講義の使用文献・参考文献のうち絶版になっているものもあります。
図書館・先輩等に借りる、あるいは古書店で購入してください。
古書店はインターネット上でも検索・注文できますので、下記の参照してください。

スーパー源氏	: http://www.sgenji.jp/
日本の古本屋	: http://www.kosho.or.jp/servlet/top
古書店つのぶえ	: http://www.tsunobue.jp/
アマゾン(和洋書/古書)	: http://www.amazon.co.jp/

《図書館の利用の仕方》

今年度も引き続き、図書の整理を精力的に行う。分かりにくいことは主事または図書館担当の岡野さんに尋ねること。借り出しの方法も変更があるかもしれないが、その都度指示に従うこと。

◎貸し出しの方法（原則的な事柄）

- (1) 机上の「貸し出し記入表」に、分類コード・番号、書名、年月日、氏名を記入する。
- (2) 貸し出し期間は、借りた日より2週間。期日厳守。
- (3) 聖書、事典、辞典、注解書は「禁帯出」である。教室で使用の場合、またコピーする場合、終わり次第直ちに「元あった書棚の所」に「自分で」戻す。
- (4) 図書室での勉強、読書、調べものは、閲覧室の代わりに授業のないときの「教室」を用いる。
- (5) 借りたい本が書架にない場合は、本は「貸し出し記入表」を見、借りている人を探す。
- (6) 学期末にはすべて返却する。休暇中に貸し出しを希望する場合には、主事または館長の許可を得ること。
- (7) 返却は、「貸し出し記入表」に返却月日を記入の上、「元あった書棚の所」に「自分で」戻す。その際、ラベルの1段目の大文字アルファベット、2段目の数字が書架を示しているので参考にすること。
- (8) 図書室、教室はもちろん、第2ビル内は禁煙。

A
1
1 2 3 4

《生活上の注意》

*以下は、ウイリアムス神学館で共同生活を営むための最低限のルールである。神学生諸君の大人としての常識と良識が期待されている。

- (1) 浴槽は、原則として月、水、金に使用する。シャワーは随時使用することができる。
- (2) 毎朝朝食前に、食事当番以外は公の場（玄関、食堂、コモン・ルーム、階段、廊下、トイレ、構内）の掃除をすること。（掃き掃除、ふき掃除）。教室を常にきれいにすることを心がけること。
- (3) 主日、月曜日、国民の祝日（2月11日を除く）を除く毎日の朝食と土曜日の昼食（弁当）は、当番が用意する。
- (4) 1年生のみ、土曜日の夕食と主日の昼食は、実習教会で用意していただく。2・3年生は、主日の昼食を実習教会で用意していただく。
- (5) 門限は午後11時とする。教会実習で門限に遅れる場合には、指導司祭にその旨を神学館まで連絡していただくこと。
- (6) 公の場には、原則として私物を置いたままにしない。いつも整理整頓に心を配ること。
- (7) 水道光熱に関して、無駄な使用は厳に慎むこと。電気はまめに消すこと。神学館運営経費の多くが、全国の教会や信徒の皆さんから献げられた献金で成り立っていることを覚えて欲しい。
- (8) 教授が休講その他授業に関する変更を指示した時は、館長・主事及び聴講生にその旨を伝え、ニコルス館ホワイト・ボードの休講欄に記入する。またそれに伴う昼食の用不要を確認し、食事係りに連絡する。
- (9) 学生会は、自主的運営を原則とするが、決定事項は必ず館長・主事にも伝えること。また必要ある事柄（公のもの、対外的なもの）は、予め主事または館長に相談すること。
- (10) 学生の役割分担の中に、保健衛生と営繕係を1名決めること。保健衛生係は薬箱を管理し、学生の健康状態に配慮する。営繕係は寮内営繕に関する学生側の窓口となる。
- (11) お客様が来られた時は、応対・接待を大切にすること。
- (12) 特に夜、ホテルの営業の妨げとなるような行為を絶対にしないこと。
- (13) 土地建物は教区のものであり、管理は教務所が行っている。関係を大切に。教区と交渉する必要があるときは、必ず館長・主事を通すこと。
- (14) 健康管理は自分で。
- (15) 火の取扱いには特に注意すること。冬期の灯油の取扱い、台所の火の始末には細心の注意を払うこと。
- (16) ニコルス館（寮）、教区センター側の4室および建物内、第2ビル（教室・図書室）は全館禁煙である。
- (17) 寮の全室にLANが設備されている。使用は自由であるが有料サイトには絶対にアクセスしないこと。また個人用パソコンのウィルス対策ソフト等は必ず各自の責任でインストールすること。
- (18) コモン・ルームに設置されているパソコンは、神学生がレジュメなどの提出物を印刷する際に使用できる。
- (19) コピー機の使用に関して、神学生一人ひとりに個人用IDと授業用IDを渡す。個人用IDは私的コピーのため（授業準備も含む）に使用し、授業用IDは授業で配布するレジュメのために用いる。授業用のものは無料であるが、私的コピーは自動的にカウントされ各学期末に清算する。学生会用には別途学生会IDを渡す。コピー機の使用方法については、上級生に聞くこと。コモン・ルームの印刷機の使用については主事または館長の許可を取ること。
- (20) 神学生（聖職候補生）として神学館に学んでいるということは、一般の学生生活とは違う。自分の言動、服装、その他に神学生（聖職候補生）としての自覚と責任を持つこと。「自分の思いのままに」ではなく「キリストの十字架を背負う」とはどういうことかを、神学・礼拝・生活を通して真

剣に考え続けて欲しい。

- (21) 学期中に外泊をする場合は、必ず所定の書式による「外泊届」を主事または館長に提出し、許可を得ること。
- (22) 寮の各部屋の鍵は各自で管理し、学年末には館長または主事に返却すること。
- (23) 出寮日以後、やむを得ない事情があって寮に滞在する場合、主事に滞在願いを提出し、館長の承認を得ること。ただし、夏期は1泊500円、冬・春期は1泊700円を神学館に納める。(卒業・修了時に任地に赴くまでの春期の3月中の滞在を除く。)
- (24) 寮室は原則として、毎年移動する。
- (25) その他、常に館長・主事と連絡を密にすること。又、集団生活での約束事を主体的に守り、学生相互のコミュニケーションを大切にして、明るい寮生活ができるように心を配ること。
- (26) なお、館長、主事が不在の時に、連絡等が必要になった場合には、ニコルス館(寮)の公衆電話前に掲示してある携帯電話等に連絡すること。

《聴講制度》

1. 聴講制度について

2007年度より科目聴講の門戸を今まで以上に大きく開き、下記の条件のもとで、開講することにした。より多くの信徒の方が、この聴講制度を利用して教会の教えや神学についてより深く学び、それぞれの教会で自らの賜物を用いて奉仕の業に励み、また信仰を深められることを期待する。

2. 聴講の条件等

1. 聖公会信徒の方。
2. 学期末のテストを受けるか、レポートを提出できる方。
3. 所定の聴講料を納付した方。
4. 所定の成績を修めた方には、申し出があれば科目履修証明書を発行する。
5. 定員によっては開講できないこともある。

3. 2018年度開講科目(授業内容、担当教員は学年別講義内容を参照のこと)

- *教理学Ⅰ(募集定員 5名) *聖公会論(募集定員 5名)
- *礼拝学Ⅱ(募集定員 5名) *礼拝学Ⅲ(募集定員 5名)
- *日本キリスト教史(募集定員 5名) *教会音楽(募集定員 5名)

但し、教理学Ⅰは教会史を、礼拝学Ⅱは礼拝学Ⅰをそれぞれ修了していることを推奨する。

4. 聴講料

*1科目 45,000円(年額)

5. 聴講手続き

1. 聴講申込書に必要事項を記入の上、神学館宛てに郵送するか、ファックスで申込むこと。担当教員と館長の同意で聴講が許可される。
2. 聴講料は最初の授業の時に納付すること。
3. 申込締切 4月7日(土) 必着
*できるだけ早めをお願いします。電話でも結構です。後日申込書をご持参ください。

6. 授業日程(試験週を含む)

- 1学期 4月10日(火)～7月21日(土)
- 2学期 9月4日(火)～12月8日(土)
- 3学期 1月9日(火)～3月9日(土)

7. その他

- *神学館の図書館を利用できます。
- *昼食が必要な方はお申し出下さい。実費。

《今さら聞けない!? キリスト教講座》

“わからない”“知りたい” だけど、こんなこと今さら聞けない、などと疑問に思っておられることに答える、2014年度からはじまったキリスト教講座です。

今年は「旧約聖書」についてです。

担当：勝村弘也教授 対象：日本聖公会信徒 場所：ウイリアムス神学館

日時：8月と12月を除く、毎月第3土曜日

午後2時～午後3時30分

4/21, 5/19, 6/16, 7/21, 9/15, 10/20, 11/17, 1/19, 2/16, 3/16

費用：教室受講コース 6,000円（1年間10回講義）

教室受講＋ネット受講コース 8,000円（ネット受講のみもできます）



2018 年度ウイリアムス神学館要覧

2018 年 3 月 31 日発行

日本聖公会京都教区 ウイリアムス神学館

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上る桜鶴円町 380

Tel 075-431-5406

Fax 075-431-5445

Tel 075-431-5408 (学生寮)

E-mail : williams@muc.biglobe.ne.jp
